



【日本プロテオーム学会通信 No. 34】

2010. 4. 25

【日本プロテオーム学会通信】は、日本プロテオーム学会会員の皆様に配信しています。

## 【KHUPO 2010 報告】

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
附属腎研究施設 構造病理学分野  
山本 格  
(日本プロテオーム学会副会長)

ソウル大学の Cultural Center で3月31日から4月2日まで開かれました KHUPO 10th Annual International Proteomics Conference に広島大学医歯薬総合研究科の木下英司先生と出席させていただきました。この交流は KHUPO と JHUPO との連携を深めるために、相互に招聘を行おうということで、2008年に前田大会長が韓国から Yang-Ki Pike を招聘してから、始まったものです。

私はソウル大学を初めて訪れたのですが、まず、大学の敷地が広く、大きな建物が数多いのには驚きました。学生も多く、学内もバスや車が走り、町のようで活気があり、大学の格付け国際ランキングでも年々急上昇で、現在47位だそうです。金浦空港から直通バスで大学に着き、学会の登録をすませて、会場に入りました。口演に使う300人くらい入る会場が一つとポスター展示会場、企業展示会場が設けられていました。この大会は Yonsei 大学の Ho J Kwon 教授が大会長で行われたものです。

口演は全てシンポジウムに仕分けられ、海外からの招聘(?)参加者が多いのに驚きました。Plenary lecture には、Vanderbilt 大学の Daniel C. Liebler、Princeton University の Benjamin A. Garcia、Ruhr University の Helmut F. Meyer、Symposium には木下、私の他に、産業総合研究所の成松、European Bioinformatics Institute の Henning Hermjakob、University of Manchester の Harry WM Steinbusch、Duisburg-Essen University の Jens Wiltfang、

Taiwan Academia Sinica の Yu-Ju Chen、 Northeastern University の William S. Hancock、 Life Technology の Jonathan D. ChesnutSao、 Paulo University の Lea T. Grinberg、 Royal Institute of Technology (Stockholm) の Mathias Uhlen と総勢 14 名が海外から参加していました。KHUPO の前に、HUPO Brain Initiative meeting を前日に行ったために Brain 関係の海外研究者が多く参加できたためと分かりました。

講演は全て英語で行われており、KHUPO が国際化を目指しているのが分かりました。日本もそのようなことも目指すべきかと思いました。ただ、講演の聴衆はそれほど多くなく、100~200 人ぐらいで、質問も若者からあまり出ないのは気になりました。

ポスターは 100 ぐらい発表され、最終日に 10 名程度がポスター賞を受けていました。日本プロテオーム学会も、若い研究者に関心をもってもらう活動、若い研究者が研究できる場所と研究費を獲得できる活動なども考えないといけないと感じました。

【日本プロテオーム学会通信】に対するご意見をメールにてお寄せ下さい (宛先は [hirano@yokohama-cu.ac.jp](mailto:hirano@yokohama-cu.ac.jp))。ご意見を【日本プロテオーム学会通信】に掲載希望の場合はその旨お知らせ下さい。

【アドレス変更/配信中止】【ご質問・お問合せ】は、日本プロテオーム学会事務局([cljhupo@secretariat.ne.jp](mailto:cljhupo@secretariat.ne.jp))にお願いいたします。